令和3年度 第1回

茨 木 市 都 市 計 画 審 議 会
— 会 議 録 —

会 議 録

(敬称略)

会議の名称	令和3年度第1回茨木市都市計画審議会
開催日時	令和3年11月9日(火) 15時00分開会・16時00分閉会
開催場所	南館8階中会議室
会 長	澤木 昌典
出席者	<p>[委 員]</p> <p>澤木 昌典、秋山 孝正、吉田 友彦、栗尾 尚孝 <以上学識経験者></p> <p>河本 光宏、福丸 孝之、朝田 充、上田 光夫、萩原 佳 青木 順子、安孫子 浩子、桂 睦子、松本 泰典、大野 幾子 <以上市議会推薦></p> <p>井上 泰正 <以上関係行政機関の職員></p> <p>平田 幸子、馬場 光 <以上市民></p> <p>岡本 康夫、小濱 邦臣 <以上臨時委員></p> <p>(以上、計19名)</p>
欠席者	岡井 有佳、長谷川 路子、富田 陽子
事務局	福岡市長、井上副市長、河井副市長、岸田都市整備部長、 福井都市整備部次長兼都市政策課長、杉浦都市政策課計画係長
議題(案件)	<p>1 茨木市都市計画審議会会長の選出について</p> <p>2 審議 議第135号 北部大阪都市計画生産緑地地区の変更(市決定案件)</p> <p>3 意見聴取 特定生産緑地の指定について <生産緑地法に基づく意見聴取></p>
傍聴者	4名

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
○杉浦係長	ただ今から令和3年度第1回茨木市都市計画審議会を開会する。 開会にあたり、福岡市長からあいさつを申し上げる。
○福岡市長	(あいさつ)
○杉浦係長	感染症対策についてご説明申し上げます。各委員においては、審議会中はマスクの着用をお願いする。また、出入り口に消毒用アルコールを設置しているほか、各委員の席間隔を開ける、アクリル板を設置するなどの対応を行っているので、よろしく願います。 本日の出席状況であるが、生産緑地に関する案件の審議を行うことから、臨時委員2名を加え、委員総数22名のところ、出席者は19名となっており、茨木市都市計画審議会条例第7条第2項の規定により、会議は成立している。また、本日は4名の方が傍聴されている。 本日は今年度1回目の茨木市都市計画審議会のため、委員の皆様を紹介する。 (学識経験者、市民委員、臨時委員、市議会推薦委員を順次紹介)
○杉浦係長	それでは、今年度の本審議会の会長の選出をお願いする。本審議会の会長は茨木市都市計画審議会条例第6条第1項の規定により、学識経験者の中から委員の選挙により定める。立候補かご推薦があればお願いしたい。
○栗尾委員	昨年度も会長を務めておられた澤木委員が適任である。
○杉浦係長	他に立候補又はご推薦はあるか。 (他に候補者なし)
○杉浦係長	他に候補者はおられないので、澤木委員を会長とすることに賛成の委員は、挙手をお願いする。 (全委員挙手)
○杉浦係長	全委員が賛成であるので、澤木委員に茨木市都市計画審議会会長をお願いする。以後、本審議会の進行を澤木会長をお願いする。
○澤木会長	茨木市では今後も重要な都市計画に関する審議が控えているため、慎重かつ円滑な審議に協力をお願いする。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>さて、茨木市都市計画審議会条例第6条第3項の規定により、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理することとなっている。ここで、私より代理の方を指名したい。本審議会での経験年数が長い秋山委員にお願いする。</p> <p>(秋山委員 了承)</p>
○澤木会長	<p>本日は、「生産緑地地区」に関する案件として、市決定案件「議第135号北部大阪都市計画生産緑地地区の変更」が付議されている。また、意見聴取案件として、「特定生産緑地の指定について」に関する説明がある。</p> <p>審議 生産緑地地区 (市決定案件) 議第135号 北部大阪都市計画生産緑地地区の変更</p>
○澤木会長	<p>まず、「生産緑地地区」に関する案件について、議第135号が付議されている。</p> <p>それでは、事務局からの説明を求める。</p>
○福井次長	<p>(『資料1』に基づき、事務局説明)</p>
○澤木会長	<p>事務局からの説明は以上である。何か意見や質問はあるか。</p>
○朝田委員	<p>本市で追加指定を開始してからの実績はどのような状況か。</p> <p>また、廃止の理由が、死亡や故障ということだが、生産緑地を存続させる手立てはあるか。</p>
○福井次長	<p>一点目の追加指定の実績については、平成26年度から追加指定の基準を運用しており、実績はそれほど多くなく年に数件程度と認識している。</p> <p>また、平成30年度に面積要件を緩和し、500㎡から300㎡に引き下げを行ったことにより、その当該年の合計として12地区、0.82ヘクタール増加している。</p> <p>また令和元年度には、南目垣・東野々宮町の市街化区域編入もあり、合計で6地区、0.75ヘクタール増加している。</p> <p>二点目の買取り申出のなされた生産緑地の存続については、法に則って運用しているところであり、市独自での対応は難しいと認識している。</p>
○澤木会長	<p>追加指定の実績については、また後日提示していただきたい。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	農地の保全の考え方について、臨時委員の方から今後の展望等があれば発言をお願いします。
○小濱委員	平成 30 年から都市農地貸借法が整備され、相続税の納税猶予を適用している農地であっても市民農園の開設が可能になった。本市ではまだ活用実績は少ないが選択肢のひとつとなってきた。
○福井次長	追加指定の実績について、手元の資料で補足すると、平成 28 年度に 1 件、平成 30 年度は 23 件、令和元年度は市街化区域編入によるものが 9 件、市街化区域編入によらないものが 3 件あった。昨年度は 2 件であった。
○桂委員	生産緑地の営農状況の現状確認はどのようにされているか。 また、今回の目垣や郡山の買取り申出の案件は、一団で存在していた生産緑地地区が買取り申出によって中抜けのような状態になってしまっている。対応策はあるか。
○福井次長	生産緑地全件の現状調査は難しく、通報等があった場合に対応を行っている。なお、新たに追加指定を行う場合には、現地を確認している。 買取り申出による生産緑地の中抜けについては、買取り申出自体が、主たる従事者の死亡や故障を受けて、土地所有者からの意向でなされるものであり、中抜けを防止するのは難しいと認識している。買取り申出がなされると、市が買い取るか否かの判断を行い、買い取らない場合は、農業従事者への斡旋の手続きがあり、農業委員会や農業協同組合に協力いただき斡旋を行っているが、斡旋が成立したケースはなく、制度上も難しいのが現状である。
○小濱委員	現状調査については、農業委員会において毎年パトロールを行っている。
○澤木委員	生産緑地地区の中抜けについては、その農地の主たる従事者が亡くなったり、故障したりしたもので、図面の上では目立つが、むしろ生産緑地が分断されて小さくなった場合も生産緑地として維持できるように面積要件を緩和して、生産緑地の保全に取り組んでいるという捉え方ができると考える。 都市農地貸借法が制定されたが、この制度が普及し市民農園が開設されていくことも今後期待される。 現状、営農されている農業者が亡くなり、相続人が農業を継ぐことがで

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	きない場合、農地を手放してしまうが、自身が農業に従事できているうちから、市民農園への移行の検討などができるよう制度について農業者の方に周知を図られたい。
○桂委員	期間が1年や3年など区切られていても、他人へ貸し出されていない状況と認識している。土地所有者の感覚として、有期契約でも貸せないというのは、どのようなことが障壁となっていると考えられるか、小濱委員にお伺いしたい。
○小濱委員	制度上は賃貸借しやすくなったが、農地所有者には、一度賃貸借すると自分が利用したいときに返ってこないという懸念があることなどが考えられる。また、本市でも市民農園が開設された事例はあるが、市民農園の開設などにあたっては、立地条件や周辺住民からの理解が得られるかなど様々な条件がそろわないと難しいと考える。
○澤木会長	他に何か意見や質問はあるか。 (意見・質問なし)
○澤木会長	無いようなので、質疑を打ち切る。異議の表明はなかったため、表決へ入る。都市計画の案のとおり承認することに異議はないか。 (異議なし)
○澤木会長	それでは、議第135号は都市計画の案のとおり可決する。
	意見聴取 特定生産緑地の指定について
○澤木会長	次に、意見聴取案件に入る。 「特定生産緑地の指定について」だが、生産緑地法の規定に基づき、指定案のとおり特定生産緑地を指定することについて妥当かどうか、本審議会に意見聴取されている。まず、事務局からの説明を求める。
○福井次長	(事務局説明)
○澤木会長	事務局からの説明は以上である。何か意見や質問はあるか。
○朝田委員	資料2-1について、「一部指定」という記載になっているのは、どの

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
○福井次長	<p>ように解釈すればよいか。</p> <p>また、申請期限を延長したということであるが、現時点で未申請として残っている3割の対象者の現状について聞きたい。</p> <p>一点目であるが、生産緑地地区の中に特定生産緑地に指定していないものがある場合に「一部指定」の表記をしている。</p> <p>二点目であるが、特定生産緑地の指定を受けるには、所有者が複数いる場合はその全員、また、所有者以外に他の権利者がいる場合については、権利者全員の同意が必要となっている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、他の所有者や権利者が遠方にある等の理由により、話し合いが十分にできていないケースも聞いている。</p> <p>そのような状況を踏まえ、農業団体からの要望もあり、期限を延長したものである。</p>
○岡本委員	<p>小作人がいる農地の特定生産緑地の申請にあたっては、所有者と小作人の間で権利関係の問題が生じ、申請が難しいケースがある。しかし、そのような場合も、両者の話し合いで解決するほかないため、少しでも解決に向けた話し合いの機会を持てるよう、申請期限の延長を要望したところである。</p>
○澤木会長	<p>他に何か意見や質問はあるか</p> <p>(意見・質問なし)</p>
○澤木会長	<p>無いようなので、質疑を打ち切る。</p> <p>指定案に対する異議の表明はなかったため、表決へ入る。「指定案のとおり特定生産緑地の指定を行うことについて、妥当である」とすることに異議はないか。</p> <p>(異議なし)</p>
○澤木会長	<p>それでは、「指定案のとおり特定生産緑地の指定を行うことについて、妥当である」とする。</p>
○澤木会長	<p>さて、本日の予定案件はすべて終了した。議事運営にご協力頂き感謝する。以上をもって、令和3年度第1回茨木市都市計画審議会を閉会する。事務局から連絡事項があればお願いします。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者

議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項

○杉浦係長

活発なご議論をいただき感謝する。次回の都市計画審議会については、1月31日(月曜日)午後3時から開催を予定している。正式な開催通知等は後日送付させていただく。

事務局からは以上である。

(16時00分閉会)